

東京大学ビジョン2020（2015年10月公表）

「東京大学ビジョン2020」策定の背景

- ・ グローバル化が加速する中で経済・社会を支える仕組みの限界
- ・ 地球規模の課題の顕在化（地球環境の劣化、資源枯渇、地域間格差など）

安定的で平穏な社会の構築に資する、経済・社会を駆動する新たな仕組みが必要



大学が産学官民の同時改革を駆動する役割を担う
東京大学の多様で卓越した学知と人材の蓄積を活用

- 新たな価値創造に挑む「知のプロフェッショナル」の育成
- 産学協創による人材育成・活用の中核としての「知の協創の世界拠点」の形成
- 研究する人生の魅力を高める雇用制度等の改革 他

オリンピックの理念（オリンピック憲章「オリンピズムの基本原則」より抜粋）

- ・ 人間の尊厳の保持に重きを置く平和な社会を奨励することを目指し、スポーツを人類の調和の取れた発展に役立てる

オリンピズム（スポーツ）の、調和のとれた人類社会の発展という基本理念は「東京大学ビジョン2020」と合致する

東京2020大会を契機としたスポーツ・健康科学研究の推進

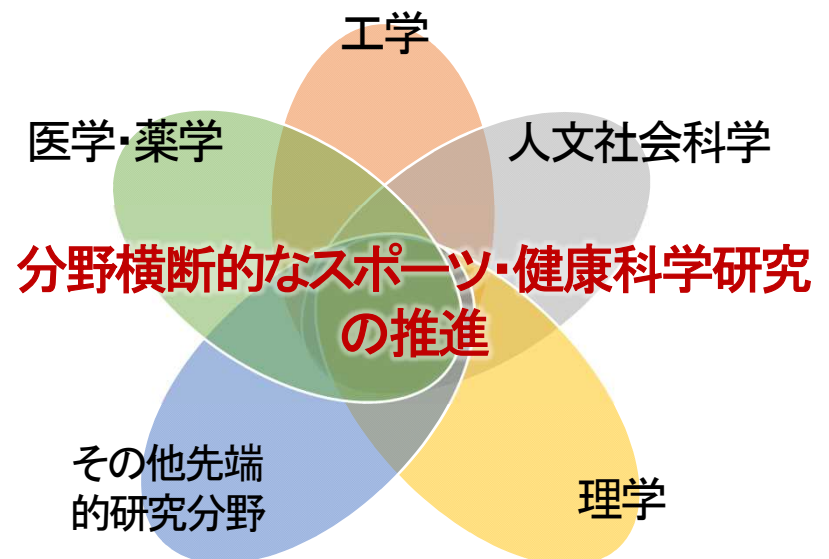
- スポーツ・健康科学は、身体能力や身体機能の向上、心身の調和の取れた健康等、社会発展を支える基盤である人間の活力を高めるものである。
- 東京大学は、スポーツ・健康科学研究の蓄積とその発展に資する多様な先端研究を擁しており、オリンピック・パラリンピック東京2020大会で世界から注目される中で、実践的課題に対し、学知の活用による大きな成果が期待できる。



医学、工学、人文社会科学等、分野横断の取組による新たな価値創造
(超高齢化社会における健康づくりや健康寿命の延伸、高齢者や障がい者のQOL向上等)

取り組むべき方向性

- スポーツ・健康科学の発展を通じた国民の心身・健康保持増進のための新モデル構築
- 障がい者支援の推進による多様性ある社会の実現
- アンチ・ドーピング、スポーツ障害の予防・治療等を通じたスポーツ振興支援
- 体育施設の整備充実による実践的研究



1964年東京オリンピックと東京大学

東大関係者による貢献

東 竜太郎（教育学部教授）	東京オリンピック誘致に貢献、大会時の東京都知事
加藤 橘夫（教養学部教授）	東京オリンピック大会時「1964スポーツ科学会議」組織委員長 日本体育協会にスポーツ科学委員会を設置 新制大学に体育の学科を必修単位として位置づけた一人
黒田 善雄（教養学部教授）	日本体育協会スポーツ科学研究所所長として、競技力向上に関する研究を推進

保有施設の活用

東大検見川総合運動場	トレーニング拠点（陸上競技、サッカー、ホッケー、近代五種） 近代五種クロスカントリーの競技会場
東大駒場キャンパス	大会時の練習場（陸上競技）

医療支援

東大整形外科、内科がトレーニング拠点の巡回診療に参加
黒田善雄が選手村の診療所所長
東大が水泳競技会場の医療救護を担当



検見川総合運動場